

けっしょうも 結晶母

発行:テラ・ルネッサンス 発行日:2007年1月1日

Terra
Renaissance

Topics

設立5周年記念全国キャラバンが無事終了しました



写真：設立初期からの支援者と対面し、感激する
トシヤ・マギー（京都報告会にて 十一月十日）

■結晶母目次

- P01 理事長挨拶
- P02 設立5周年記念全国キャラバン
各会場の報告／参加者の声
- P04 ウガンダ事業報告
- P06 カンボジア事業報告
- P08 特集：「5年間の軌跡」
- P10 事業紹介・報告
ワンフェス/パネルレンタル事業
/NGO相談員
- P11 支援者紹介
イマン様/北川八郎様/平安オート様/
ヒューマンフォーラム様
- P12 付録：最近の活動掲載記事
- P16 今後の予定／イベント紹介

希望の新芽を大きく育てよう！



講演で全国を廻るたびに、このような質問をお受けすることがあります。

「なぜ、このような活動を続けることができるのですか？」

私はいつも「全国各地を廻ったり、ウガンダやカンボジアで、絶

望的なことにもたくさん出逢います。でも、それ以上に希望を見出すことが多いのです。だから、活動を続けることができるのだと思います。」とお応えします。

2006年は、紛争、テロ、いじめと様々な問題が露見した年でした。報道を聞くたびに苦しい思いをします。でも、それ以上に「希望の新芽」は、ウガンダ、カンボジア、そして日本のあちらこちらで育ってきているのも事実です。07年は、その「希望の新芽」を大きく育てるべく、一層精進してまいります！

理事長：鬼丸昌也

■「あなたには必ず生きる理由がある・・・。」トシャが各地で伝えたメッセージ

今回、多くの方のご支援をいただき、京都/東京/沖縄/鹿児島/宮崎/埼玉（2会場）/群馬/愛知の合計9会場で報告会を開催することができました。日本に初めてやってきたトシャ・マギーは寒さに驚きながらも、出逢った多くの方の優しさに触れて、「ありがとう。」の言葉とともに、11月24日に帰国しました。

《報告会を主催・共催いただいた皆さま》

主催：地雷ゼロ鹿児島様（鹿児島）、ひむかの宝箱様（宮崎）、自由の森学園様（埼玉）、立正佼成会高崎教会様（群馬）、コスモライフ研究会様（埼玉）、株式会社アイケイ様（愛知）

共催：株式会社沖縄教育出版様（沖縄）

《トシャ・マギー報告要旨》

トシャ・マギーは各会場で、自分の生い立ちから語り始めます。

彼女はブルンジ内戦中に家族を失い、難民としてタンザニア、コンゴと渡り歩き、ウガンダへとどり着きます。その中で《周囲が皆死ぬと、すべて自分のせいではないかという思いにかられました。自分を責め続けました。》と彼女が語るように、多くの死別を繰り返していくのです。

ウガンダで様々な差別や偏見を受けながら、貧困を抜け出すために、英語を一生懸命学んでいきます。使用人として働く家で聞こえてくるテレビやラジオの音に耳を傾けながら・・・。

語学を習得すれば、きっと良い仕事にありつけるだろうと希望を持って、彼女は学び続けていきました。ある程度、英語を話せるようになり、職を得た彼女ですが、心の中の孤独感は消えることがありませんでした。彼女は、ウガンダの首都カンパラでかつての自分のように路上で暮らすストリートチルドレンを引き取ることにしました。



トシャ・マギー

彼女はその時に感じた気持ちを、このように表現しています。

《人生の価値は、自分がどれだけ幸せになれたかではなく、周囲にどれだけの幸せを与えられるか。引き取った子どもたちに「お母さん」と呼ばれたとき、私は初めて「希望」を感じました。》

その後、小川真吾理事との出逢いがあり、テラ・ルネッサンス職員として働くことを決意、ウガンダ北部での元子ども兵社会復帰プログラムの中核を担っています。

今回の来日には、日本で毎年多くの自殺者がいることを聞いた彼女が、「私の経験が役に立てば。」と、給料から渡航費用を自ら積み立てて実現しました。

全国キャラバンで訪れた沖縄では、平和記念資料館で日本でも壮絶な地上戦があったことを知り、《あなたの親の世代も苦しんだ。でも、彼らがそこで人生を投げ出してしまったら、あなたは今日、ここに存在しない。だから、あなたは命を絶ってはいけません。》と、その後の報告会場で強く語り始めます。



自身の体験を話すトシャ・マギー

トシャ・マギーは各会場でいつも最後に、このメッセージを残していました。

『まず、自分を愛する事。そして1日1日に意味がある事を、人生は美しい事を知ってください。いかなることが過去にあっても、未来を作る事ができます。どれだけ周りの人たちを幸せにできるか、それは私達の未来によって実現できます。まず、あなた自身が幸せになってくださいね。』

■ジェーン・グドール博士とのジョイント報告会が実現（京都報告会）



聴衆に語りかけるジェーン・グドール博士

京都報告会では、ジェーン・グドール博士（類人猿研究家/国連平和大使）とのジョイントが実現。日本での短い滞在期間の合間をぬって、京都まで駆けつけてくださいました。

ジェーン・グドール博士は、チンパンジーの生態のことに触れながら、環境や平和を守っていくのは一人ひとりであり、誰にでも「希望の新芽」が心の中にあることを、穏やかだけれども熱く語ってくださいました。

また、基調講演の中で何度もテラ・ルネッサンスのことを紹介してくださり、「希望あふれるプロジェクト」だと語ってくださいました。

ご自身の講演が終わられた後にも、会場を離れる時間ぎりぎりまで、トシャ・マギーの報告に耳を傾けてくださるなど、テラ・ルネッサンスを心から応援してくださる博士に、心から感謝申し上げます。

■各地の報告会でボランティアも大活躍。

設立5周年記念として開催した「全国キャラバン」では、各地でボランティアとして多くの方がお手伝いしてくださいました。

京都では、会場へのお客様の誘導係や物品販売に、東京では会員の黒崎真理子さんやカンボジアスタディツアーに参加したメンバーを中心に、会場設営から取り組んでくださいました。

全国キャラバンをきっかけに、各地で会員、ボランティアの皆さまと交流できたことが、何よりの収穫でした。



物販ブースで頑張るボランティア

■会員さまからの応援メッセージ【森光枝様（埼玉県/ファンクラブ会員）】

支援などと言うのは、私が最も避けてしまう分野なのですが（責任はとれるのか、どこまで関われるのか、などを重く考えたりするせいでしょう。）、鬼丸さんのあの軽やかな、弁舌さわやかな話を聞いているうちに、気は緩み、何度か聞くうちに今度は、ウガンダの子どもたちの中にいるような気になってきて、喜びにあふれてミシンを踏んでいるのが見えてきて、里親になってしまっていたのです。

責任は？とか、どこまで？とか、そんな考えはもう浮かんでこずに、あの子たちに笑顔があることを一緒に喜ぶ私がいるだけです。それを現実にしているのが、鬼丸さん、小川さん、トシャほかスタッフの方々なのです。私は今、自分にできることを誠実にさせていただくだけです。今年はトシャが、お金と時間をかけて私たちに会いに来て下さった。旅費の負担がトシャにとってどれほど大きいことか。それなのに日本の私たちに感謝を伝えたいという思いだけで来て下さった。行動するとは何なのか。トシャから教わった気がします。

前回報告したように、ウガンダでは停戦合意が崩壊したことによって、状況の変化がおきています。今回の結晶母ウガンダ事業報告は、現地駐在員である小川から現場の状況を報告してもらいます。

■制服が完成しました～元・子ども兵らの思いが形に～



第一期の受益者たちは支援開始から1年半が経ち10月にはマイクロクレジットを供与し各自、この半年間小規模ビジネスで学んできたことを元に、それぞれ自立に向けて収入向上に励んでいます。また、洋裁を学んできた受益者たちが自分たちで全員の制服を完成させました。この取り組みは、半年前のオリエンテーションの際、「制服はあるのですか？」という質問に、私が「制服はまだ無いんだ…」と答えたのに対して、第一期生の一

人が「無いなら自分たちでミシンの使い方を覚えて洋裁を勉強して、自分たちで作ろうよ!」という提案から始まりました。あれから、針に糸も通したこともない子達が訓練を受けて写真のような立派な制服を作ることができるようになりました。手工芸を選択している子達の方も、洋裁を習っている子達が全員分手作りで作ってあげました。この制服、実際に作ったものを触ってみましたが、本当によくできていて規制のものと遜色ありません。そして何より、これまで心に深い傷を負いながら前向きに生きることも考えられなかったような子達が自らアイデアを出して協力し合い一つのことを成し遂げたということに強く感銘を受けました。

■水道設備が完成しました

(有)リアルスタイル様のご寄付により、敷地内へパイプを引き水道設備が完成しました。これまでは、ポリタンクに水を汲んで30分くらいかけて、何往復もして水を運んできていましたが、これで、給食の準備や建設作業などもスムーズにできるようになりました。また、水が引かれたことで、チャイルドマザーの子どもたちの衛生管理や保健衛生面を改善することができました。



ウガンダ事業では、ルネッサンス・プログラム・サポーターを随時募集しています!!

ルネッサンス・プログラム・サポーターとは、元・子ども兵が自立するまでの基礎教育・職業訓練経費と期間中の食料・医療費を、1口3,000円/月からご支援していただくサポーター制度です。資料請求は、テラ・ルネッサンス事務局・吉田までお問い合わせ下さい。

テラ・ルネッサンス事務局 住所：京都市伏見区深草池之内町5-23-105

Tel：075-645-1802 E-mail: contact@terra-r.jp HP: <http://www.terra-r.jp/>

■ グローブハウス（基礎教育棟）が完成しました！

（株）アイケイ様（<http://www.ai-kei.co.jp/> 代表取締役社長：飯田裕様）のご寄付により、スマイルハウス（職業訓練棟）の隣に基礎教育、平和教育、環境教育などの為の棟（グローブハウス）が完成しました。これまでは識字教育などの基礎教育などはスマイルハウスの教室からミシンを毎回毎回入れ替えながら教室を併用して授業をしていましたが、今後はグローブハウスでこれらの授業を一括して進めていくことができるようになりました。また、新しい3期生の受益者38名と23名の地域の貧困層の住民を受け入れることも可能になりました。グローブハウスでは今月から授業が始まっています。

**■ 10月から新たに38名の第3期生を受け入れました**

ルネッサンス・プログラム（ウガンダ元・子ども兵社会復帰事業）は、2005年5月に初めて第1期生15名の受け入れ、今年4月には第2期生23名を受け入れていました。そして、12月から始まる第2学期より、正式に第3期生38名が加わりました。

20年続いているウガンダ北部の紛争も今年に入り政府軍と反政府軍（LRA）との和平交渉が進展し、8月末には停戦合意が結ばれました。しかし、その1ヵ月半後、停戦合意は破られ再び紛争が続いている状況です。現在も反政府軍には1000人近い子ども達が兵士として戦わされていると推測されており、その中には大人兵士との強制結婚によって子どもを産まされた元少女兵（チャイルドマザー）たちも数百人はいると言われています。

そんな中、ウガンダ北部では今だに食料や薬へのアクセスが制限され、多数の子どもたちがマラリアや栄養失調などにより命を失っています。また、反政府軍から帰還した子どもたちがコミュニティに帰り生活を再建していくための支援も限られており、帰還後も元子ども兵たち、特に幼子連れて帰還したチャイルドマザーたちは外部の支援なしには生きていけない状況です。協働NGOのグスコには毎日のように支援を求め村々から訪れるチャイルドマザーたちで溢れています。

このような状況を鑑みて、テラ・ルネッサンスでは今年10月に第3期生となる新しい受益者を当初、20人の予定でしたが、他の援助機関やグスコとも話し合いを重ね、最終的に38名の受益者を受け入れることにしました。そのうち2名は障害を負っている元少年兵でそれ以外はチャイルドマザーです。また、チャイルドマザーの中にはHIV感染者の女性も含んでおり他のHIV／エイズ専門のNGO等とも協働していくことになります。



■ 義肢装具士養成学校（CSP0） 新しい奨学生が決定しました！

カンボジアでは、今でも地雷・不発弾による被害者が年間800人以上出ており、今までに障害を負ってしまった人の数は世界でも最悪の数字になっています。彼らをサポートする義肢装具士は、それに比べて圧倒的に数が少ないのが現状です。特に女性の義肢装具士が少ないことから、カンボジア・プノンペンで義肢装具士を養成するための学校を運営しているNGOカンボジア・トラストと提携して、義肢装具士養成学校の女性の学生1名に奨学金を提供しています。9月に卒業したソクンさんに続き、10月に入学したカンボジア人のカンニャさんを奨学生として決定しました。



★ カンニャさんからのメッセージ★

私の名前は、カンニャといい、20歳の女性です。2005年に高校を卒業し、家族とコンポン・チャム州に住んでいます。私を奨学生に選んでいただき、とても嬉しく思います。私の奨学金の支援だけでなく、多くの障害者を助けてくださってありがとうございます。ご存知のように、私の国ではたくさんの障害やトラウマを持つ人々がいます。彼らの多くは、義肢や装具を着けなければ働くこともできない貧しい家庭の人たちです。私の家庭も、母は私のために大学で勉強するための十分な資金を用意できませんでした。しかし、ある日、私はこの奨学金制度を知り、障害を持つ人々を助けたいと思いました。この学校で勉強したあと、私はこの奨学金制度を得ることができなかった人とも私の知識を共有したいと思います。私が障害者のために働きたいと思った理由は、彼らのなかには、本当に人生において重大な状況にいる人たちがおり、とにかく自分の能力と知識によって彼らを助けたいと思ったからです。この義肢装具士養成学校（CSP0）で勉強した後、障害のない人々と同じように障害をもつ人々が幸福感を感じてほしいので、彼らを励まし、お世話をしたいと思います。とにかく良い義肢装具士になれるようにベストを尽くして勉強します。

■ カンボジア事業でボランティアが大活躍！

カンニャさんの奨学金は年間90万円必要です。この90万円には彼女の生活費から授業料、義肢を作るための工具や材料費も含まれています。この90万円を、今年はみなさんから寄せられた書き損じはがきの換金で捻出しようと計画しています。このプロジェクトを担ってくれているのが、スタディツアーに参加した学生メンバーなのです。

毎年カンボジアへのスタディツアーを行っていますが、参加者が最初に地雷被害者の様子を垣間見るのが、この「カンボジア・トラスト」です。そこでは、地雷やポリオの被害者が必死にリハビリを行う姿と、彼らの義肢を懸命に作る義肢装具士の姿を、同時に見ることができます。そしてツアーの行程が進むにつれて、カンボジアという国で足や腕を失った人が生きていくためには、義肢装具が不可欠であるということを肌で感じるようになります。参加者は帰国後「自分たちにできることは何だろう」と自分自身に向き合い、やがて行動を始めます。

今回の書き損じはがきキャンペーンも、ボランティア自らが目標枚数を決め、積極的に広報してくれています。このプロジェクトはテラ・ルネッサンスにとって、カンニャさんと学生ボランティア、両方の成長を期待させる“希望あふれるプロジェクト”なのです。

※ボランティアが作った書き損じはがきキャンペーンのチラシをぜひご覧ください！



カンボジア・トラストのリハビリ室を見学するツアー参加者

■ バナン地域最貧困層家族生活再建プロジェクト 経過報告

カンボジア・バタンバン州バナン地域における社会的弱者(地雷被害、貧困などに苦しむ家族)を対象とした新しいプロジェクトが始まって2ヶ月あまり。徐々に成果が見え始めてきました。来年3月までの6ヶ月間の小額の資金提供を元手に新しいビジネスを始めて、自立への道を懸命に歩いているところです。



オー・ホウンさんの家族(63歳)

■ プロジェクト前の事前調査 (2006年9月)

奥さん(59歳)と2人暮らしをしています。5年ほど前、新しい農地を開墾しているときに地雷を踏んで、左足のひざから下を失ってしまいました。ホウンさんは、今も痛む足の治療費で、毎日お金がかかります。奥さんは元気で、農作業を手伝ってお金を稼いだり、野菜を売って生計を成り立たせています。しかし、食べ物に困るほど貧しい生活が続いていました。

■ 2ヵ月後(2006年11月末)

テラ・ルネッサンスの月20ドルの小額資金を元手に15羽の鶏と1匹の子豚の飼育を始めました。これならあまり動くことのできないホウンさんでも餌をあげたり、飼育ができます。そして奥さんは農作業を手伝いに働きに出て、1日3500リエル(1ドル≒4000リエル)を稼いでいます。まだ、生活は大変ですが、家畜の飼育は順調で、2、3ヶ月後には、それらを売ることで収入がさらに入ってくる予定です。

今回プロジェクトを行っているバナン地域は、現在もまだ地雷が埋設されている地域です。現在カンボジアが直面している地雷撤去資金枯渇問題は、この地域にも暗い影を落としています。テラ・ルネッサンスはこの状況を受け、今年から「地雷撤去資金確保」に力を入れています。

ボウ・クノー村ルポルタージュ (カンボジア担当：江角泰)

村長さんの家へ行きました。ここの村には209家族、529人が住んでいるといいます。そのうち、6人の障害者、43人の未亡人がいるという話をききます。さらに、最貧困の生活をしているのは33家族。障害者の多くは地雷を踏んで怪我をしたためだといいます。また未亡人の夫の多くはポル・ポト時代に殺されたり、ある人は戦闘中に兵士として戦っているときに殺されたり、エイズによってなくなった人もいます。貧しい人の多くが1993年頃、他の場所から引っ越してきた人たちで、そのためあまり多くの土地をもっていないために貧しいとのことでした。

さらに話を聞いていくと、やはり地雷の話が出てきました。数年前まではここも地雷原だったんだと現地スタッフのクン・チャイが教えてくれます。彼は、もともと地雷撤去団体MAGのスタッフであったので、その当時、ここの地雷撤去をやったことがあると教えてくれました。『この村を当時訪れたときには、村人が生活している家のすぐ近くに地雷が普通にあったんだ。水を溜めるための水がめのすぐ横に、地雷が見えていたんだ。』といいます。

そして、村長さんは村の地図を見せてくれました。『この川の向こうには地雷がまだ埋まっているんだ。多くの村人がそこでたくさんの動物が地雷によって死んでいるのを見ているし、地上に多くの地雷が見えている。』最近の地雷の事故は、2003年地雷によって村人がなくなったといいます。さらに2004年には牛がなくなり、2005年には野生動物が地雷によって死んでしまった事故が起きていると教えてくれます。現在、村人の住んでいる家の建っているところは、すでにMAGとCMACの2つの団体が地雷撤去を終えているそうです。しかし、優先順位の低い川の反対側にはまだ多くの地雷が埋まっています。2007年から2008年にかけてMAGがこの地域での地雷除去をする予定とのことですが、やはり今なぜ地雷撤去をストップしているのかということ、資金面での問題のようです。とにかく、地雷の傷跡をいまだに引きずっているという印象の村でした。

この10月で設立5周年を迎えたテラ・ルネッサンス。ここで、テラ・ルネッサンスがどのようにこの5年間を歩んできたのかを簡単にご紹介いたします。



■ 設立初期（2001年9月～2003年12月）

最初は学生同士・仲間内の活動として始まったテラ・ルネッサンス。活動を続ける中で、新しい仲間が増え、徐々に組織としての体裁をとり始めました。また、設立初期は代表の鬼丸による地雷の講演活動が主な事業でしたが、大きなチャリティイベントを行う機会にも恵まれ、新しいボランティアもどんどん関わってくれました。「ボランティア・スタッフ」という承認を得たメンバーが運営委員会を開いて、運営を担っていた頃です。

	出来事	事務局の様子
2001年		
9月	9.11アメリカ同時多発テロを受けて、「友情の手紙プロジェクト」開始。多くのメディアに取り上げられる	この事務所を開設したときテラ・ルネッサンスは組織としてスタート。「結晶母」もこのとき創刊されました！
10月	テラ・ルネッサンス設立！京都円町のアパートに事務局を開設！	
2002年		
3月	初めての「カンボジア・スタディツアー」を行う	独自の新しいボランティアが次々と参画！ボランティアへの研修を開始しました「月例ミーティング」として、会員・ボランティアの交流の場も設けていました。
8月	第1回合宿研修in富士「スタッフとしてのミッション共有」	
10月	チャリティイベント「ライオンズエクスペリエンス」開催 シンクロナイズドスイミングを通して地雷廃絶を訴える。 2回の公演で3000人の来場者	
12月	設立一周年記念報告会開催 ウォン・ウィン・ツァンさん・Ikukoさんに出演していただく	森本が事務局スタッフ（無給）に就任。これによって事務局体制が整い、この年からインターン生の受け入れを開始しました。
2003年		
8月	地雷ゼロ宮崎との合同合宿in宮崎県綾町	この時期は講演活動をはじめとする啓発活動に力を入れました。その結果、徐々にテラ・ルネの認知度が高まり、様々な人からご支援をいただくようになりました
	子ども兵・小型武器に関する取り組みを開始！まずは先進的な活動を行っている欧州のNGOを訪問する「ヨーロッパ調査を開始」	
9月	京都市主催「二条城国際音楽祭」において市と協働 「テラ・ルネッサンスフォーラム2003」開催 小田全宏さん顧問に就任	



■ 形成期（2004年1月～2006年10月）

2004年3月のアフリカ調査から、活動は一気に加速します。約一年に渡る準備の上、当会設立当時から交流のあった小川真吾の雇用を決定、ウガンダに派遣しました。これにより「ウガンダ北部の元・子ども兵社会復帰プログラム」が本格的に始動します。さらに、国内では海外の支援現場を支えるインターン生（長期）の活躍が目立ち、カンボジアでは除隊兵士家族への支援も始まりました。

同時に小型武器への問題にも着手し、国連会議への出席や外務省との面談、議員勉強会の開催などを通じて、公的にもテラ・ルネッサンスの認知度が高まってきました。予算も桁違いに増え、その多くが支援者の皆様による寄付でした。スタッフもこれまで以上の奮闘が続いた時期です。

	出来事	事務局の様子
2004年		
3月	ウガンダ・ルワンダ・ザンビアにて子ども兵・小型武器の調査を行う。※NPO法人ネットワーク「地球村」との共同調査として小川真吾が同行する カンボジアにて「義肢装具士育成学校」に通う女子カンボジア学生への奨学金支援が始まる	海外での支援活動が本格的になってきたことを受け、専門知識のある院生を長期インターンとして受け入れをはじめました。
4月	第1回「21世紀PEACE講座」開催「二人の若者が見たアフリカ」鬼丸の講演テーマに「紛争下の子どもたち」が加わる	
9月	第2回「PEACE講座」開催「わかる！できる！軍縮」※ミリオンフェイスキャンペーンが始まる	
11月	日本小型武器行動ネットワーク(JANSA)設立シンポジウムテラ・ルネッサンスがリーダーシップを取って設立にこぎつける	カンボジアとウガンダで2つの支援プロジェクトが同時にスタートしました。また国内では「愛・地球博」のプロジェクトリーダーとして「アフリカの叡智」を実施。3月には、ノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんと鬼丸が対談！今まで以上に活動が活発になった時期でした。
2005年		
1月	小川真吾を正規職員として雇用・ウガンダに派遣 NPO法人格取得！ ウガンダの首都カンバラに現地事務所開設 元・子ども兵社会復帰プログラム開始！	
5月	カンボジア・バタンバン州にて地雷被害者の生活再建プロジェクト開始！インターン(当時)の江角を3ヶ月カンボジアに派遣する	
7月	NYで行われた国連小型武器会議第2回中間会合へ参加	業務の多忙に伴い、長期のインターンを3人に増強。学生ながら自分の担当業務をもち、責任を持って仕事に取り組んでいます。
8月	ウガンダスタディツアー初開催	
11月	合同出版より「ぼくは13歳 職業、兵士。」刊行。帯文に一青窈さんがコメントを寄稿。東京にて出版記念パーティを開催する	
2006年		
2月	ワン・ワールドフェスティバル(大阪)に出展。ミリオンフェイスキャンペーンを実施し、2日間で200人以上の顔署名を集める。	森本・江角が有給職員に！鬼丸が講演で全国を飛び回る中、森本・江角・インターンが事務局を支えています。
4月	元・子ども兵社会復帰プロジェクト2期生受け入れ・開始	
5月	ウガンダで職業訓練施設「スマイル・ハウス」が完成！	
6月	初の会員総会開催。	
7月	第2回国連小型武器履行検討会議に小川・江角・吉田が参加	
9月	義肢装具士学校の奨学生ウム・ソクンさんが成績トップで卒業	

■会員さんからのメッセージ（大阪市在住・池側恵美子さん）

設立5周年、おめでとうございます。まだ5年と思うほどの成長ぶり、活躍ぶりにすごいなと感心しています。最初、鬼丸さんからNGOを立ち上げたいと聞いたとき、彼はまだ大学生でした。大丈夫かな～？という少しの心配と若いパワーにワクワクしたのを覚えています。彼が講演を始めた時は何かサポートできたらと思ったり、イベントを開催する時はお手伝いしたり、本を出版した時はとても嬉しくて宣伝しまくったり、時には、ちゃんと食べてるかな～と食料を差し入れたり、なんだか自分ではお姉さんのような気持ちで関わらせてもらっています。今年の8月には、ウガンダの“スマイルハウス”への視察ツアーに参加させてもらいました。そこでの体験・出会いは私の今に大きな影響を与えてくれました。平和であることの、平和を創っていくことの大切さを深く感じています。テラ・ルネの活動が続くこと、それが、みんなに勇気と希望を広げているなって思います。これからもどうぞよろしくお願いします。



「スマイル・ハウス」にて受益者チャイルド・マザーの子どもたちと撮影



ボランティアによる「カンボジア料理研究会」

■今年も参加します、ワン・ワールドフェスティバル！

国際協力団体、JICA、国連機関、企業が一同に活動紹介を行う関西の国際協力祭「ワン・ワールドフェスティバル」が2007年2月3日・4日に開催されます。テラ・ルネッサンスは活動紹介の他に、民族料理模擬店でカンボジアの名物「クイテウ」（米ヌードル）を出店する予定です。前回は企画ブースで武器規制を求める顔署名「ミリオンフェイスキャンペーン」を行い、2日間で200人を超える人々に署名を行ってもらいました。今回は初の民族料理模擬店に参加する

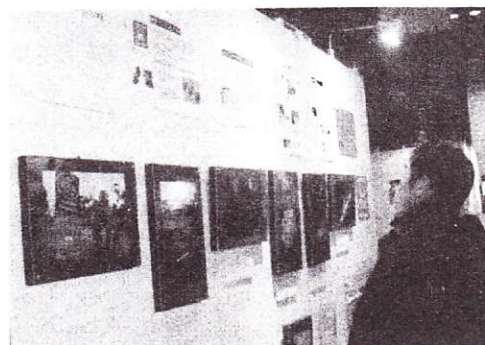
ということで、カンボジアスタディツアーに参加したメンバーや、京都在住のカンボジア人に協力をお願いし、「どうすればカンボジアのクイテウの味が日本で出せるか」の研究会を重ねています。ここでもボランティアの自発的な取り組みが見られ、今後の事業展開も期待できそうです。

■地雷写真パネル・子ども兵絵画セット好評レンタル中！

文化祭・イベントシーズンということもあり、秋は「地雷写真パネル」と「元・子ども兵絵画セット」のレンタル申し込みが殺到しました。それぞれの「問題解説パネル」もついており、このセットだけで、「自分たちに何ができるのか？」を考えられる内容になっています。「地雷写真パネル」はフォトジャーナリストである山田しんさんに写真を提供してもらっており、非常にクオリティの高いものに仕上がっています。また、「元・子ども兵絵画セット」は「写真よりもリアルに情景が伝わってくる」と好評なのに加え、このような絵自体が学術的にもとても貴重なものなので、心のケアなどを勉強している心理学専攻の学生からも注目を浴びています。

例年は学校からのレンタル申し込みが多いのですが、今年は「テラ・ルネッサンスの活動を紹介したい」と、支援者の方が申し込まれるケースが目立ちました。このパネルセットがあることで、スタッフが参加できないイベントでも、テラ・ルネッサンスの活動をアピールできます。ご興味のある方は、事務局までご相談くださいませ。

（パネルレンタル事業担当：うたき）



12月10日京都駅で行われた「国際協力ステーション」にて地雷写真パネルを展示

■NGO相談員地域連絡会議開催～他団体・外務省との連携深まる～

テラ・ルネッサンスが平成18年度の「NGO相談員」を外務省から受託して半年が過ぎました。この間、事務局には月に30件を超える質問・相談が寄せられています。

特に、子ども兵に関して独自のプロジェクトを持っているのが国内ではテラ・ルネッサンスだけということと、学生が立ち上げた若い団体であることから、学生やマスコミの相談が多くみられます。

11月末には、全国のNGO相談員と外務省担当室が一同に会し、意見交換を行う「地域連絡会議」が沖縄で行われ、テラ・ルネッサンスからは副相談員の森本が参加しました。NGO相談員を受託している団体は、活動経歴が長く地域の核となる団体が多い中、初受託であるテラ・ルネッサンスは分科会で平和教育への取り組み事例を発表するなど、その活動をしっかり沖縄の人々にアピールすることができました。

寄せられた相談は、月ごとにテラ・ルネッサンスホームページにアップしています。「よくある相談」も載せていますので、みなさんもぜひご覧ください。これを読むだけでNGOについてずいぶん詳しくなれます。



■チャリティーパーティーを開催。オークション収益を全額寄付。(株式会社イマン様)



オークション盛り上がっています

アンティーク雑貨製造・卸の株式会社イマン様（代表取締役：田中芳美様）は、05年より元子ども兵社会復帰プログラムを支援くださっています。12月3日（土）に、イマン様の製品を販売されている店主様、お客様をお招きしてのクリスマスパーティーを開催されたのですが、今回、初めての試みとしてチャリティーオークションを企画くださいました。デザイナーおススメの雑貨などを出品くださり、お客様も愉しみながら参加されていました。オークション収益、参加費の一部をあわせて、354,600円もご寄付くださっています。

■北川八郎様が「断食の本（致知出版）」書籍印税を寄付くださいました。



8月21日に理事長が出演した「ラジオ深夜便」を作陶中に聴かれ、直接、北川八郎様より、「断食の本」を出版する際の印税を、元子ども兵のために使ってほしいとお電話いただきました。陶芸家・北川様を慕う方が集う会で、10月1日に講演させていただきました。その時、初めて北川様とお逢いさせていただいたのですが、とても穏やかで素敵なお方でした。「断食の本」は、とても読みやすいもので、健康や命の大切さを考える上で参考になることが、たくさん書いてあります。頂戴した印税は、元子ども兵社会復帰プログラムに活用させていただきます。

■社内報で募金を募ってくださいました(株式会社ヒューマンフォーラム様)

京都市を中心に中古衣類の販売を手がける株式会社ヒューマンフォーラム様（代表：出路雅明様）。高校生や若者に人気のある店舗を全国的に展開されています。ヒューマンフォーラム様が発行されている機関誌で、テラ・ルネッサンスの活動紹介と募金を募ってくださり、246,120円を社員様のメッセージを寄せた色紙とともに、事務所まで持ってきていただきました。色紙には、全国各地の社員様が「ぼくは13歳 職業、兵士」を読んだ感想などをびっしり書いてくださっていました。募金だけでなく、多くの方に課題を知っていただく機会を作ってくくださったことに感謝申し上げます。



メッセージありがとうございます。

■独自発行の新聞で回収事業を呼びかけてくださいました。(株式会社平安オート様)



株式会社平安オート様（代表取締役：武田勝典様）が、店頭で中古インクジェットカートリッジと書き損じはがきの回収を呼びかけてくださっています。昨年11月の京都青年会議所例会での講演を聴いて、ご自身にできることとして、店頭で中古インクジェットカートリッジや書き損じはがきの回収ボックスを設置。社員様、お客様に回収を呼びかけてくださいました。何より驚いたのが、年2回発行されている会社のニュースレター1面の半分も使って、社員の方やお客様

に呼びかけてくださっているのです。「自分にできることから始める。」私たちが大切にしている理念の大切さを、株式会社平安オートの皆さまからあらためて教えていただきました！

京都新聞

発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

10/27(金)

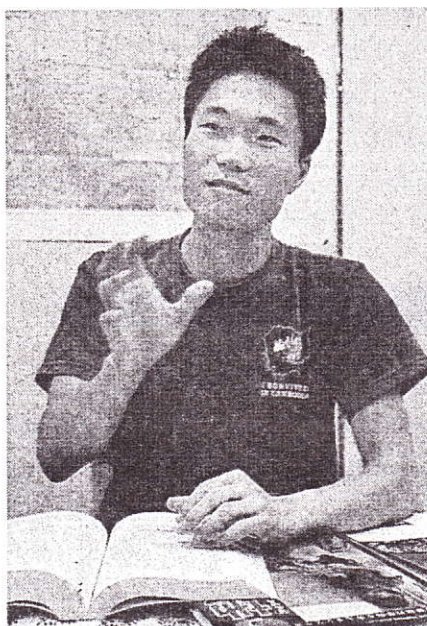
京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.
© 京都新聞社 2006年

http://kyoto-np.jp/
番号案内・受付 (075)241-5430
読者応答室 (075)241-5421
直通(075)241- 京都新聞COM
社会報道部 6119 販売局 6164
文化報道部 6127 広告局 6172
〈運動〉6129 事務局255-9754
購読お申し込み 0120-464-468
滋賀本社 (077)523-3131

◇カンボジアは長年の内戦などで、四百万〜六百万個の地雷が国土の1%、約千九百万㎡に埋められた。
「講演先で地雷が何個以上あれば地雷原か、参加者に尋ねる。正解はゼロ個。地雷がなくても住民が危険を感じれば生活に支障が出る。特に同国では国際法に反して埋設位置が記録されず、市民の記憶頼み。撤去作業は安全確認の意味が強い。むろん火薬をかき分ける犬が一步も進まないような密集地もあるが…」
◇地雷原へ繰り返し足を運んでいるが。
「三年前、初めて聞いた爆破音が忘れられない。作業現場の竹やぶから約三百m離れたのに、パンツと乾いた音に体は硬まり、言葉が出なかった。でも、そでは少年が牛を追いついてた。民家の庭先などに地雷注意の看板が当然のように立つ風景は、何度見ても衝撃を覚える。危険と隣り合わせの現状は次世代へ受け継ぐべきではない」
◇地雷などの一日平均の被害者は六年前に二人まで減っ

NPPO法人テラ・ルネッサンスの
カンボジア事業担当理事

江角泰さんに聞く



えずみ・たい 島根県出身。宮崎公立大を卒業後、2004年春に立命館大国際関係学部前期博士課程へ進むとともに、京都市伏見区のNPPO法人(特定非営利活動法人)テラ・ルネッサンスに入る。カンボジア事業を担う。25歳。

資を行ったり、相談に乗る窓口をつくる計画もある」
◇遠く離れた日本で地雷への関心を受け継ぐ手だては。「厳しさを肌で感じてもらうため学習旅行を続けている。参加者の反応は『何かしたい』『誰かに伝えたい』と前向きだ。居住地周辺ですら撤去完了まであと五十年かかるとの予測もある。周囲の人たちに体験を語るなど、小さな一歩が世界を変える可能性を秘めると信じ、地道な働きかけを続けたい」
(社会報道部 松浦吉剛)

今月のテーマ

受け継ぐ

戦禍の遺産・地雷

撤去作業に貧困の壁

だが、その後は横ばいだ。
「昨夏に調査したタイ国境でも、地雷で足を吹き飛ばされるなどした人たちが農業に励んでいた。学校で地雷回避の教育が行われているが、貧困層は危険を承知で熱帯雨林の伐採や開墾に向かう。鉄や火薬が金になる不発弾を解体中に負傷する場合も多い。結局、貧困の問題にぶつかると、貧困と地雷被害の連鎖を断ち切るため、十月から新たな始めた事業とは。
「貧しい家庭に半年間、毎月の二十日づつ援助し、牛や鶏の飼育、手作り菓子の販売などの特技を生かせる仕事を考へ、商売のこつを学んでもらう。第一弾は働き手の数や一日の稼ぎ、やる気などを考慮し、同国中部で十三家族を選んだ。商売を軌道に乗せるため、引き続き無担保の小口融

50 レポート



「元子ども兵士」を
ウガンダで支援する

小川 真吾さん
おがわ しんご

の非営利組織（NPO）
が創設した施設「スマイル・ハウス」で、約40人の
復旧支援に取り組む。傷つき、
自分の村を襲撃するこ
ともあるという。母親の
腕を切り落とした少年、
兵士の暴行により10代
で出産せざるを得なか
った女性……。傷つき、

硬直した表情が変わる
それが一番うれしい

内戦の続く東アフリカ
のウガンダ。幼いころ、
戦闘で傷つき、社会復帰
を目指す若者は多い。05
年2月から同国に駐在。
北部の都市グルに、京都

「人を殺したり、殺さ
れるのを見たりと、トラ
ウマは大きい。顔が硬直
している」。04年、初の
調査で同国を訪れた。絶
対服従」の兵士として、
学生時代、インド滞在中
にマザー・テレサが亡
くなった。人々がマザー

への感謝を口にするのを
聞き、国際協力道を志
した。98年、青年海外協
力を志しながらに話す女性に
育や生活相談などを担当



和歌山県出身。学生時代、準硬式野
球選手として活躍。イラク、パレスチ
ナなどでも活動。共著に「ぼくは13歳
職業、兵士。」（合同出版）。31歳。

「シンゴ」と慕われる。
元少女兵が、昨秋生まれ
た子に「シンゴ」と名付
けてくれた。「あなたの
ように希望を与える子に
育ってほしい」と。「少
し恥ずかしかったけれ
ど、うれしかった」
最近、帰国して、彼ら
の苦悩や課題を報告。日
本からの支援を訴えた。
「傷ついた元子ども兵が
新たに歩み出す手助け
を」。その志を胸に、今
月末、ウガンダに戻る。
文と写真・加藤小夜

2006年（平成18年）11月29日（水曜日）



発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号 〒530-8251 電話(06)6345-1551
郵便振替口座 00920-0-450
毎日新聞大阪本社 © 毎日新聞社 2006

2006年(平成18年)12月13日(水曜日)

每日新聞

子どもの自殺止めたい

元難民のアフリカ女性が来日

♪あなたには必ず生きる理由がある。自分を愛し、自分の人生を愛してください——♪ 日本で相次ぐ子ども自殺に心を痛めた一人の女性が先月、「生きることの喜びを伝えたい」とアフリカから来日した。ウガンダで日本の非営利組織（NPO）の事務所職員として働くトシヤ・マギーさん26。生まれたブルンジ共和国では内戦下の虐殺により7歳で家族を失い、難民として少女時代を過ごした。このほど訪れた自由の森学園（飯能市）では、中高生約150人を前に、自身の苦難と再生の物語を語った。

【高本耕太】



自由の森学園で生徒たちに囲まれるトシャ・マギーさん

NPO職員

トシャ・マギーさん

自由の森学園で講演

虐殺、差別…苦難の過去語る

トシヤさんはすべてを失った。

▲周囲が皆死ぬと、自分のせいではないかという思いにかられる。自分を憎んだ▼

難民の一行にロープで引かれ、ケニア、タンザ

貧困から抜け出すため、トシャさんは語学を必死で学んだ。使用人として働く家で、テレビを見ながら英語を勉強した。語学を習得してよい良い職を得られるようになり、次第に生活は楽に

は、子どもたちとの出会いをきっかけに、前向きに歩み始めた。現在、働いている日本のNPOは子ども兵や戦争孤児らを支援している。

日本では、数百人の子どもが毎年自殺をするとい

だから、あなたは命を絶
つてはいけないのです」
トシャさんは、これか
らも紛争などで犠牲にな
った人たちのために働き
続けたいと考えている。
最後に子どもたちへのメ

たのは、トシャさんが初めて小学校に通った日。ただ一人生き延びた。引き取ってくれた父の知人の一家もやがて殺され、

△容姿や出自で差別されるのはとてもつらいこと。「この経験が私を強くする」と、自分に言い聞かせた▽

呼ばれたとき、私は初めて「希望」を感じた▼

虐殺を一人生き延びた自分の存在に意味を見いだせずじまいのトシャさん

「あなた」の親の世代も苦しんだ。でも、彼らがそこで人生を投げ出してしまったら、あなたは今日まで生き残ってはいない。

▲手足を切り落とされ
た子どもの遺体が道に転
がり、家族は家ごと焼か
れていた。私は気を失う
まで、泣き叫んだ▼
家族が暮らす集落が敵
に対する部族の襲撃を受け

最後に身を寄せたウカ
ンダのキャンプを飛び出
したのは12歳のとき。職
を探す街では、壮絶な差
別が待っていた。布切れ
をまとったブルンジ人は
「獣扱い」された。

の子どもを引き取り、自宅から学校に通わせた。

▲人生の価値は、自分がどれだけ幸せかではなく、周囲にどれだけ幸せを与えられるか。子どもたちに「お母さん」と

日で、沖繩を訪れた。戦争に翻ろうされた人々の歴史に触れ、「私が生まれる前にも、さまざまな苦難を乗り越えた人たちがいるのだ」と感じたと

来日

ニアなど周辺国のキャンプを渡り歩いた。飢え、寒さ、マラリア――。苦しみの連続だった。

ンバラでかつての自分と同じように路上で暮らす、孤児たちを支援することを思い立った。4人

中の誰もが苦しみや悲しみを抱えて、それでも生きてゐる」

め
たー

たい

なっていた。だが、孤独感が変わらず、生きる喜びを感じることはできなかった。

んは「私の経験が役に立てば」と、給料から積み立てた渡航費で日本を訪れた。

▲過去が未来を作るこ

力へと帰っていった。
 ▲毎日が新しい一日。
 美しい新たな日です▼

■01月～02月の予定（一部）★は一般参加可のイベントです

- ☆01月13日（土）出展：幸塾全国大会（京都）
 ☆01月18日（木）講演：愛知県立大学（愛知）
 ☆01月24日（水）講演：兵庫県立明石高校（兵庫）

☆02月03日（土）～04日（日）

出展：ワンワールドフェスティバル（大阪）

毎年恒例のワンワールドフェスティバルへの出展。今年は食事ブースにも出展し、カンボジア料理をお出しします。ぜひご参加ください。

- ☆02月15日（木）講演：筑波大学（茨城）
 ☆02月18日（日）講演：株式会社ヒューマンフォーラム（京都）
 ☆02月21日（水）講演：有限会社ヘアメイクバング（広島）
 ☆02月24日（土）講演：難波市民学習センター（大阪）
 ☆02月26日（月）講演：社団法人さぬき青年会議所（香川）

講演先募集中

06年は100回もの講演をおこないました。

事実を知り、行動を起こすきっかけとして、講演活動には07年も力を入れてまいります。

講演会開催を希望される方は、お気軽にテラ・ルネッサンス(TEL:075-645-1802)までお電話ください。

一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか（会員募集）

テラ・ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。テラ・ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願い致します。

【会員特典】・会報誌「結晶母」等の贈呈・テラ・ルネッサンス主催のイベントへの優待 など

【会員

種別】

正会員	●正会員	30,000円／年
賛助会員	●個人会員	3,000円／年
	●ジュニア会員（18歳まで）	1,000円／年
	●団体会員	50,000円／年
ファンクラブ会員	●理念に賛同し、月単位で継続支援される方	1,000円／月

郵便振替 00950-7-133760

加入者名 テラ・ルネッサンス基金

Purelife
Japan

FOR YOUR QUARITY TIME

<http://purelife.jp>

『結晶母』は株式会社ピュアライフジャパン様の広告協賛で作られています

【編集後記】（事務局：森本のり子）

12月に入って、事務局のパソコン3台が一気に「体調不良」を訴えました。内一台は重症で、画面がピクリとも動かない。おかげで、たくさんの「期限」を抱えた作業が遅々として進まず、結晶母の発行も遅れてしまいました。代表は新しいパソコンを買うために、チラシとにらめっこです（笑）

【編集・発行】

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
 612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105
 tel/fax:075-645-1802 e-mail:contact@terra-r.jp
 URL <http://www.terra-r.jp>



本誌はリサイクルや地球環境に配慮した大豆油インクを使用しています